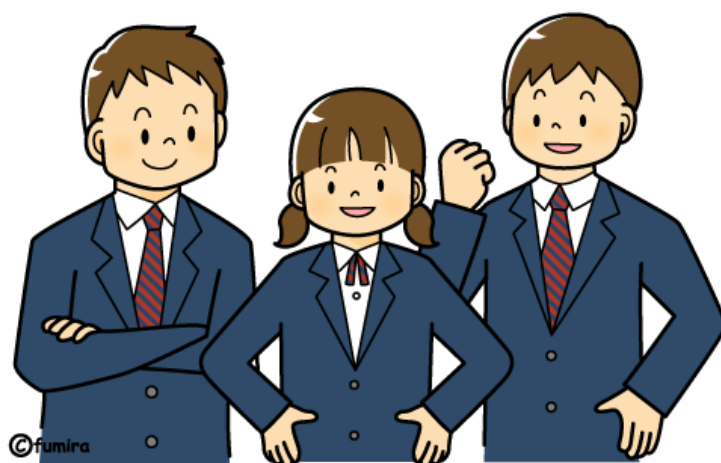


# 高等学校における特別支援教育

## 生徒の誰もが学びやすい学習環境づくりの手引き



### CONTENTS

このような生徒はいませんか？

高校生の抱える学習上の苦手さ

発達障害とは？

高校生と発達障害

授業づくりの視点

学びやすい学習環境

授業実践の紹介

まとめ

佐賀県教育センター

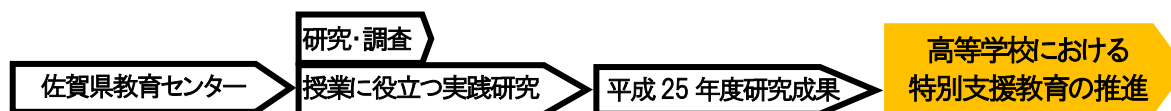
高等学校特別支援教育プロジェクト研究委員会

H26. 3

高等学校における特別支援教育を推進するために、佐賀県教育センターでは、平成24・25年度の2年間にわたり、プロジェクト研究として『高等学校における特別支援教育の推進—生徒や教育職員の意識調査に基づく、発達障害の特性を踏まえた学習環境づくり—』に取り組みました。

この手引きは、2年間の研究についてまとめたものです。手引きの主な内容として、「高校生の抱える学習上の苦しさ」「高校生と発達障害」「学びやすい学習環境」「授業実践の紹介」を掲載しています。授業づくりを行う際や、生徒への支援を考える際のヒントとして御活用ください。

研究についての詳細は、佐賀県教育センターホームページを御覧ください



## このような生徒はいませんか？

- 読みにくい字を書く、ノートを書くことに時間が掛かる
- 考えや気持ちを発表や作文で表現することが苦手
- 一斉の指示では行動に移せない
- 複数の指示を聞き漏らす
- 整理整頓が苦手
- 手先が不器用で作業などが進まない
- 準備や後片付けに時間が掛かる
- 学習や活動を順序立てて行うことが苦手
- 最後まで終わっていない課題を提出することを嫌がる
- 課題を終わらせるのに時間が掛かる
- 内容を分かりやすく伝えることが苦手
- 質問に対して出し抜けに答える
- 他人の活動を遮ってしまう
- 場面や相手の感情、立場を理解できない
- 学習に無気力で、何となくぼんやりとしている

うんうん。  
こんな生徒いるぞ！



うちの学校だけなのだろうか？  
県内の高校生はどうなのだろうか？

次のページでは、県内の高校生の実態についてのアンケートをまとめています。

# 高校生はこのような学習面における苦手さを抱えていました！

## 高校生の学習に関する意識調査を行いました

佐賀県内の県立高等学校6校の高校2年生にアンケートを実施し、  
高校生が抱える学習面における苦手さやつまずきについて調査しました。

特に苦手さを抱えているのは、

### ◇ 自分の考えを表現すること

県内の高校2年生の約30%の生徒は、自分の考えを人前で話したり、作文や小論文で文章化したりすることに苦手さを抱えているという結果が明らかになりました。

自分の考えを  
文章で書くのは  
苦手だなあ…。

### ◇ 課題を遂行すること

県内の高校2年生の約15%の生徒は、複数の課題やテスト勉強に、計画的に取り組むことが苦手であり、さらに課題を終わらせるための時間が掛かることに焦りを感じているという結果が明らかになりました。

先生の話聞き  
ながらメモを取れ  
たらいいのに…。

### ◇ 説明を聞いて覚えること

県内の高校2年生の約12%の生徒は、教師が説明するスピードが速かったり、内容が難しかったりするという理由から、耳から聞いて内容を覚えることに苦手さを抱えているという結果が明らかになりました。

あの授業のプリントが  
どこにいったのか  
分からないなあ…。

他にもさまざま学習面における苦手さを抱えています。

◇ 桁数の多い数字や数式、英単語を正しく読むこと

◇ 授業中に周囲の刺激に気が散ることなく集中すること

◇ 見るべき部分を理解し、教科書や板書を見ること

◇ 学習プリントを保管すること など…

Aさん 聞くこと+読むこと  
Bさん 聞くこと+書くこと  
Cさん 聞くこと+書くこと+話すこと

一つだけではなく、いくつかの苦手さを抱えている

苦手さの組み合わせは、生徒によって違う

## 生徒が抱える学習面における苦手さには多様性があります。

高校生の抱える学習面における苦手さは、発達障害の特性によるものもあると考えられます。  
次のページからは、高校生と発達障害についてまとめています。

アンケートに関する詳細については、

[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h25/05%20toku\\_sien/seito\\_mokuteki.htm](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h25/05%20toku_sien/seito_mokuteki.htm)

教育職員及び特別支援教育コーディネーターに向けた意識調査もあります。

# 発達障害とは？

## 発達障害

### 自閉症

自閉症とは、3歳位までに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害です。自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものを高機能自閉症といいます。知的発達の遅れを伴わず、かつ自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れを伴わないものをアスペルガー症候群といいます。

### 注意欠陥多動性障害（ADHD）

注意欠陥多動性障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないのですが、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、衝動性、多動性が顕著に現れます。そのため、日常的な活動や学校での学習において苦労することが多く見られます。

### 学習障害（LD）

学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはなく、聞く、話す、読む、書く、計算する、又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものです。

参考資料 文部科学省HP 特別支援教育について 主な発達障害の定義について  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/004/008/001.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/004/008/001.htm)

### 発達障害の特性のある生徒は、学習でこのような様子が見られます

- 長い時間、集中が持続しない
- 板書を書き写すのに時間が掛かる
- 読みにくい字を書く
- ぼんやりとしている
- 複数の指示を聞き漏らす
- 計画的に課題に取り組むことが難しい
- 作文が苦手である
- 質問に対して出し抜けに答える
- .....

発達障害の診断のない生徒にも、このような生徒はたくさんいるぞ…。  
診断名の有無は関係なく、“発達障害の特性のある生徒”と考えていく必要があるようだ。



発達障害の特性を有する生徒に対する対応は、  
他の生徒にとっても、役立つ対応であると考えられます。

# 高校生と発達障害

## 高校生という時期は

発達段階において青年期に当たります。青年期とは、自分とは何者かを考え始めるようになり、自分らしさを探すため自分を他人と比べる時期であり、自分と他人のささいな違いを気にしていると思い悩む時期です。

生徒の抱える苦手さに対する周囲の理解と支援がなされなければ、様々な場面において、生徒はうまくいきにくい状況になることが考えられます。失敗体験を積み重ねてしまうことで、生徒の自尊心が傷つき、自己肯定感が低下することにつながることも考えられます。

そのことで、生徒が本来抱えている苦手さとは別の二次障害として、長期欠席や問題行動、学力不振につながりかねません。

以上のようなことから、生徒の自己肯定感を高めるために、「できた」という成功体験を増やしていく環境を整えていく必要があります。

高校生の時期は、どのような支援が必要なのだろう？



分からないけど聞けないな…。もう一度言ってほしいな…。



学習面における苦手さを抱えていると、支援が必要であっても…

自分だけが集団から取り出されて個別に指導を受けることは、自己肯定感を低くすることもあります

だから

一斉の授業の中で、苦手さに対する支援をさりげなく行うことが必要です

このような支援は

生徒の誰もが学びやすい授業につながります

みんなと違うのは、何だか恥ずかしい。特別な扱いをしてほしくない。



生徒によって苦手さは違っている。一斉の授業の中で、どのように対応したらいいのだろう？

生徒の中には、その特性などに応じて、個別の支援を必要とする生徒がいます。生徒の実態に応じて個別の支援に取り組むことも、生徒にとって、より学びやすい学習環境となります。

この手引きでは、一斉の授業の中で取り組む支援について提案しています。

次のページからは、一斉の授業の中で取り組む支援について紹介しています。

高校生と発達障害についての詳細は、

[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h25/05%20toku\\_sien/hattatu.htm](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h25/05%20toku_sien/hattatu.htm)

# 授業づくりの視点

生徒が学びやすい授業になるためには、  
どんな配慮や工夫をしていけばよいのだろうか？



## ～授業の組立てについての提案～

1 単位時間の授業の中で、「見通しをもつ活動」と「振り返る活動」を取り入れて授業を組立ています。

### 導入 学習の 見通しを もつ

授業の見通しを最初に示されることは、授業の展開が予測できることで、安心して授業に参加できることにつながります。また、最初の3分程度を使って、前回の振り返りを行うことも、前回の授業内容から今回の授業内容へつながり、スムーズに授業に臨むきっかけになります。

学びやすい  
学習環境

### 展開

教師の説明を聞く場面、板書を書き写したり計算問題を解いたりする作業的な場面、推論したり考えたり自分の意見を発表したりする場面を、バランスよく組み合わせるなどの工夫も大切です。また、それぞれの活動に生徒が意欲をもって取り組むことができるように、活動の量や活動形態の工夫を行うことも大切だと考えます。

学びやすい  
学習環境

### まとめ 学習したことを 振り返る

授業の最後の5分程度を、その日の授業の振り返りに当てることは、生徒の学習内容を整理し、断片的な記憶の関係付けを支援する効果があり、授業内容の理解・定着につながることができると考えます。

学びやすい  
学習環境

引用 小田 浩伸・伊丹 昌一監修 大阪府教育委員会編著 『高校で学ぶ発達障害のある生徒のための 共感からはじまる「わかる」授業づくり』 2012年 ジアース教育新社

上記のことについては、高等学校学習指導要領総則編でも述べられています。

「各教科・科目等の指導に当たっては、生徒が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすることが必要である」

そうすることで

学習意欲の向上と学習内容の定着が図られるものと考えられます。

# 学びやすい学習環境

## 学びやすい学習環境

「授業のポイントが分かりやすい板書の工夫」や、「説明や指示の際に、図や写真などの視覚的な教材を活用する」などのような、生徒の学びやすさにつながる教師の働き掛けの全てを“学びやすい学習環境”と捉えています。

教師の言葉かけ

教材提示の工夫

ペア活動の取入

板書の工夫

ワークシートの工夫

視覚教材の利用

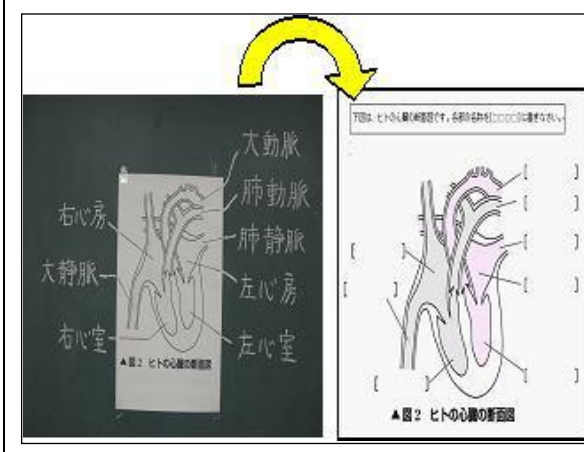
座席配置の工夫

指示の出し方の工夫

例えば、「書くこと」が苦手な生徒への学びやすい学習環境例を紹介します。

### 【学習環境例 1】ノートの書き写す量を調節する

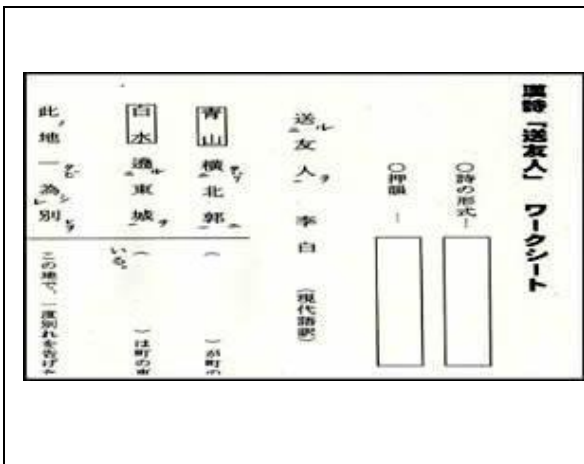
板書を時間内に書き写すことが苦手な生徒への支援



見ながら書くことが苦手な生徒は、板書を書き写すことに時間が掛かってしまい、それ以外の話を聞いたり、活動したりできなくなることがあります。

そこで、書き写す量を少なくするために、図や絵を板書の中に取り入れ板書量を減らしたり、板書の図と同じワークシートを用意したり、ワークシートをノートに貼れるようにしたりすることで、必要な部分だけを短い時間で書き写すことができるようになると考えられます。

### 実際の授業で活用した例



古典の授業で、学習のポイントとなる語句を書き込むワークシートを準備し、板書もワークシートと同じ形式にして、見やすくなるようにしました。ポイントとなる部分が穴埋めになっているので、生徒は、書き込む箇所が分かりやすく、書く量も減ったことから、短時間で書き込むことができ、学習のポイントを意識しやすくなると考えられます。

他にも「書くこと」についての学習環境があります。

### 【学習環境例 2】ノートのマス目や罫線の幅を選択できるように紹介する

### 【学習環境例 3】ノートの書き写す量を調節する



次のページでは、「見ること」についての学習環境を紹介しています。

# 学びやすい学習環境

「見ること」が苦手な生徒への学びやすい学習環境例を紹介します。

## 【学習環境例 1】大きい図や表を使用する

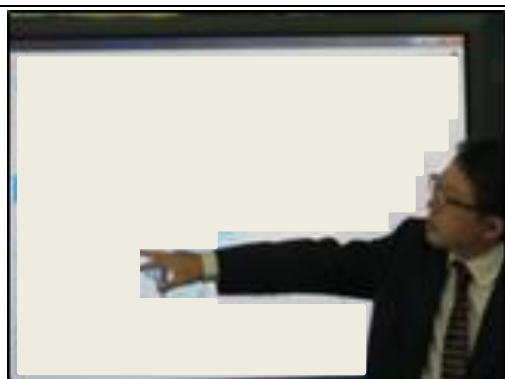
図や表の中の言葉や記号を見ることが苦手な生徒への支援



文字が小さくつまった表や細かく描かれた図などを見ることが苦手な生徒は、かかれたポイントを意識できないことがあります。

そこで、図や表を拡大し黒板に提示したり、プレゼンテーションソフトを使って提示したり、ポイントに印を付けたりすることで、図や表が見やすくなり、説明されている内容やポイントを理解しやすくなると考えられます。

実際の授業で活用した例



社会の授業で、インターネットの地図ソフトを活用して電子黒板で提示しながら、学習に出てくる地名や場所を確認しました。また、地図の尺度を変化させて図を拡大して提示しました。生徒は、提示された地図が大きくなることで、場所の位置関係を確認しやすくなり、歴史事象についての理解につながると考えられます。



他にも「見ること」についての学習環境があります。

【学習環境例 2】黒板やワークシートでは、要点やキーワードなどに印を付けて提示する

【学習環境例 3】見やすい色のチョークで板書する

8つの領域について学習環境例と授業実践での活用例を掲載しています

書くこと

聞くこと

話すこと

読むこと

見ること

注意・集中

道具の管理

課題への取組

[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h25/05%20toku\\_sien/tebiki.htm](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h25/05%20toku_sien/tebiki.htm)



# 授業実践の紹介

それぞれの授業についての詳細はWEBで紹介しています

県内7校において、学びやすい学習環境を取り入れた授業を実践しました。

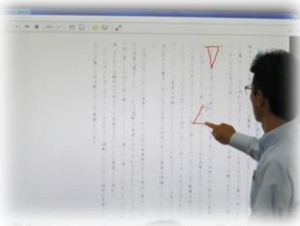


伊万里商業高等学校 山口友紀子教諭 1年『理科 科学と人間生活』

図を拡大して電子黒板に提示することで、実験の観察手順やポイントを分かりやすくし、生徒が授業内容のポイントを意識できるような工夫がなされていました。また、少人数のグループにすることで、生徒は人前で話すことへの抵抗感が和らぎ、笑顔で積極的に意見交換を行う様子が見られました。

神埼高等学校 古川昌宏教諭 1年『英語科 コミュニケーション英語Ⅰ』

1時間の活動の流れを板書したり、活動時間を明確に指示したりすることで、生徒が見通しをもって活動ができるような工夫がなされていました。英語を苦手としている生徒が多いとのことでしたが、生徒の誰もが集中して各活動に取り組む姿が見られました。



多久高等学校 木下圭文教諭 3年『国語科 現代文』

評論文の読解において、本文とノートを1枚のワークシートにしたことで、本文の全体像が分かりやすくなるような工夫がなされていました。また、板書量を精選することで、生徒は書く時間が短くなり、聞くことや考えることにしっかり取り組んでいる様子が見られました。

唐津青翔高等学校 矢次恭実教諭 2年『国語科 古典』

漢詩を音読して情景を思い浮かべる学習において、絵や写真などの画像を使ってイメージをもたせる工夫がなされていました。言葉だけでは分かりにくい語句について、写真などを提示することで、どのようなものかイメージを膨らませることができ、自分の感想を発表している姿が見られました。



鹿島高等学校 福田勝哉教諭 2年『数学科 数学Ⅱ』

電子黒板を使って関数のグラフを動かすことで、イメージしやすくなり、その後の演習では多くの生徒が考えやすくなったようでした。生徒同士の学び合い活動を取り入れることで、話すことが苦手な生徒も、互いに自分の考えを確認し合う様子が見られました。

鹿木高等学校 野副修平教諭 3年『地理歴史科 日本史B』

重要語句だけを書き入れるワークシートを用い、授業中に書く量を調整されたことで、生徒の記入する時間が短くなるよう工夫がなされていました。教師が説明するときには、生徒はワークシートを書き終えて、集中して説明を聞いている姿が見られました。



次のページからは、授業実践について詳しく紹介しています。

# 授業実践の紹介

これまでに紹介した“学習環境”や“授業づくりの視点”を取り入れて授業実践を行いました

授業実践の中の **◇配慮や工夫**や**◇本時の学習活動と具体的な学習環境**の箇所に、具体的な学習環境や取り入れた意図などについて紹介しています。

**英語 英語表現 I 1年【コミュニケーション活動の流れが分かるワークシートや視覚補助を取り入れた授業の実践】**

## ◇単元名

教科書 Vision Quest English Expression I Advanced (啓林館) Grammar 2 (p.12), (p.54)

## ◇単元の目標

- ・見たり聞いたりしたものについて、自分がどのような気持ちになるかを即興で伝えることができる。
- ・相手の話す内容について、共感したり質問したりすることができる。

## ◇本時の目標

- ・ペア・ワークやグループ・ワーク活動に積極的に参加し、自分の考えを主体的に話したり、コミュニケーションを円滑にする表現を使いながら、相手の話を聞いたりする。
- ・見たり聞いたりしたものについて、自分がどのような気持ちになるかを即興で伝える。
- ・中学校での既習事項である make を用いた「主語＋動詞＋目的語＋形容詞」に加えて高校での新出事項である「主語＋動詞＋目的語＋原形不定詞」の用法を理解し、表現の幅を広げる。

## ◇配慮や工夫

本時の学習は、見たり聞いたりしたものについて、自分がどのような気持ちになるかを即興で伝えることをねらいとしている。そのために、活動方法についての説明の工夫やワークシートの工夫、そして生徒同士が積極的にコミュニケーション活動を行うことができるような学習形態の工夫が必要となってくる。

そこで、次のような配慮や工夫を行っていく。


導入では、見通しをもたせるために、本時の主な教材となるワークシートのタイトル部分に、本時の目標を示しておき、常に確認ができるようにする。また、学習内容と学習の流れが分かるように、ワークシートを授業の流れに沿った構成にし、見通しをもって授業に取り組むことができるようにする。

展開では、生徒同士で行うコミュニケーション活動の仕方について視覚的に理解できるように、活動の手順を示すイラストを電子黒板で提示する。そして、ペアでのコミュニケーション活動を取り入れ、人前で英語を話すことへの抵抗を和らげるようにする。

また、make を用いた本時のターゲットセンテンス(新出の文法事項を含む文)につなげるために、生徒の興味を促す動画を電子黒板で提示して、視聴後、気持ちを英語で表現させていく。そして、その動画に対するWeb 上のコメントを基に、共通して使用されている make の言葉に気付かせるようにする。さらに、本時のターゲットセンテンスを活用できるように、ペアでのコミュニケーション活動を行う。その際、生徒にとって身近な生活場面などイメージをもちやすい場面の写真やイラストを提示して、コミュニケーション活動への意欲を高める。

まとめでは、学習を振り返らせるために、電子黒板で本時のターゲットセンテンスを提示して、学習で行った内容を確認する。

## ◇本時の学習活動と具体的な学習環境

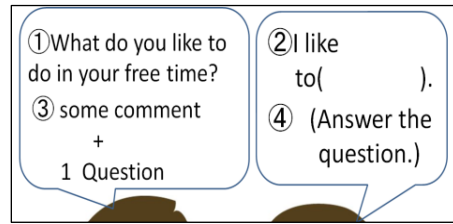
過程	学習内容	具体的な学習環境等
導入	1 前時の学習を想起し、本時の目標を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で生徒が書いたワークシートを電子黒板に提示して、それを基に教師と生徒のやりとりを行う。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに本時の目標を提示する。【学習環境 I】</li> <li>・ワークシートを授業の流れに沿った構成にする。【学習環境 I】</li> </ul>

# 授業実践の紹介

展開

2 スモールトーク(ある話題について英語で行う短い会話)の仕方を確認する。

・電子黒板に、生徒同士で行うコミュニケーション活動の仕方について提示して説明する。  
【学習環境Ⅱ】



3 動画を見て感想を話し合う。

・電子黒板で動画を提示する。  
【学習環境Ⅲ】  
・生徒同士のペアでのコミュニケーション活動を行い、動画の感想を英語で表現させるようにする。  
【学習環境Ⅳ】



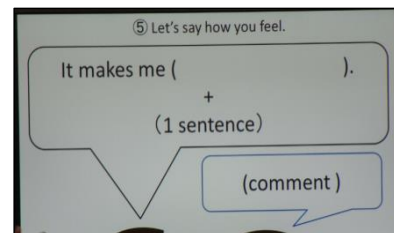
・動画の感想を言う際に、生徒が日常的に使いやすい語をワークシートにまとめておき配布する。  
【学習環境Ⅲ】



4 ターゲットセンテンスを確認する。

- (1) Web上のコメントを見る。
- (2) 共通して使われている表現を見付ける。
- (3) 教科書で該当する表現を確認する。

・提示した動画に対するWeb上のコメントを電子黒板に提示して、共通して使われている表現への気付きを促す。また、そのコメントが書かれたプリントを生徒に配布して、ポイントを書き込めるようにする。  
・教科書で表現の確認をさせる際には、口頭による指示だけでなく、黒板にも教科書のページを書いておく。  
・電子黒板にターゲットセンテンスを提示して、ペア活動の目標を確認する。  
【学習環境Ⅱ】



5 写真やイラストを見て、ペアで自分の感情やそう思った理由を英語で伝え合う。

・生徒にとって身近な生活場面などイメージをもちやすい場面の写真やイラストを提示する。

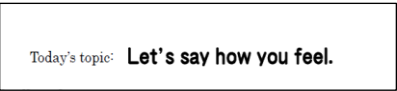
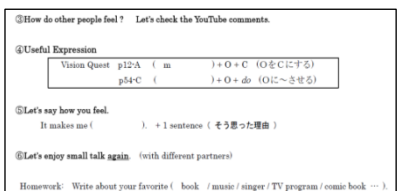
まとめ

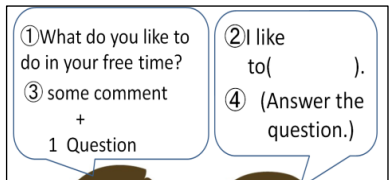
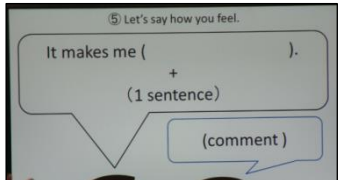
6 本時の学習内容を振り返る。

・電子黒板のターゲットセンテンスを基に、本時の学習内容を振り返る。



# 授業実践の紹介


## ◇取り入れた学習環境の実際と生徒の様子

<b>学習環境 I</b> <b>〈聞くこと〉</b>	本時の目標をワークシートのタイトルにし、また授業の流れに沿ったワークシートの構成にする。
<b>取り入れた意図</b>	英語での指示を聞いて覚えておくことが苦手な生徒にとって、教師が、本時の目標や授業の流れをワークシートに示しておくことで、常に本時の目標を意識したり、見通しをもって活動を行ったりすることができるようになる。
<b>[本時の目標をタイトルにしたワークシート]</b> 	<b>生徒の取組の様子</b> ワークシートに本時の学習の目標を示したことで、ペアでのコミュニケーション活動や教科書でターゲットセンテンスの表現を探す活動の際には、ワークシートの目標の箇所を確認していた。
<b>[授業の流れに沿ったワークシートの構成]</b> 	<b>生徒の取組の様子</b> ワークシートの①～⑥の順番を見ながら、次の活動へ移ることができていた。
<b>[学習環境の考察]</b> 英語での指示を聞いて覚えておくことが苦手な生徒も、本時の主な教材となるワークシートに、本時の目標や学習の流れを示したことで、生徒は何度もワークシートを見ながら、常に目標を意識できたと思われる。また、次の段階に移る際には口頭での指示だけでなく、生徒の前でワークシートを指さしながら説明を行ったことで、指示の内容を理解するための視覚的な補助になったと考える。	

<b>学習環境 II</b> <b>〈聞くこと〉</b>	電子黒板にイラストを提示して、生徒同士で行うコミュニケーション活動の仕方について視覚補助を与える。
<b>取り入れた意図</b>	英語での指示を聞くことが苦手な生徒にとって、教師が、活動の方法を口頭での説明だけでなく、電子黒板でイラストを提示して視覚的な補助を与えることで、指示されている内容が分かりやすくなる。
<b>[電子黒板に活動の方法を提示する]</b> 	<b>生徒の取組の様子</b> 生徒は、電子黒板に提示されたイラストを見ながら、ペアでスムーズにコミュニケーション活動を始めた。質問に対する答えだけでなく質問に対するコメントをするなど、積極的にコミュニケーション活動を行っていた。
<b>[ターゲットセンテンスを提示する]</b> 	<b>生徒の取組の様子</b> 生徒は、電子黒板に提示されたターゲットセンテンスを見ながら、スムーズにペアでのコミュニケーション活動を始めた。どの生徒も、センテンスの中の空いている箇所に、気持ちを表す言葉を入れて話すことができていた。
<b>[学習環境の考察]</b> 英語で授業を行う際には、英語の聞き取りが苦手な生徒にとっては、活動内容の説明を理解するだけでも苦勞することが考えられる。イラストや文字で活動の仕方を段階的に視覚的に示すことで、生徒は安心して活動に取り組むことができ、コミュニケーション活動に積極的に取り組むことができたと考える。	

# 授業実践の紹介

<b>学習環境Ⅲ</b> <b>〈話すこと〉</b>	英語で気持ちを伝える活動で、動画や画像を提示したり、気持ちを伝える際に使いそうな英単語をワークシートにまとめたりする。
<b>取り入れた意図</b>	自分の考えをもつことが苦手な生徒にとって、動画を電子黒板で提示したり、ワークシートで気持ちを表す英単語を選択肢として提示したりすることで、視覚的に内容を理解することができ、自分の気持ちを伝え合う活動に取り組みやすくなる。
<p style="text-align: center;"><b>[動画の提示]</b></p> 	<p><b>生徒の取組の様子</b></p> 動画の視聴の際には、どの生徒も興味をもって取り組んでいた。視聴した動画には、英語での台詞などがなかったので、リラックスして視聴をしていたようだ。
<p style="text-align: center;"><b>[気持ちを表す語のリスト]</b></p> 	<p><b>生徒の取組の様子</b></p> 動画を見た気持ちを表現する際、気持ちを表す語のリストを基に、自分の気持ちに合う英単語を探す生徒が見られた。また、生徒の中には、普段はあまり使わないと思われるなじみのない英単語を使っている姿も見られた。
<p><b>[学習環境の考察]</b></p> 動画での提示は、自分の考えをもつことが苦手な生徒も、視覚的に内容を理解しやすく、「自分の気持ちを伝える」活動に取り組むことができたと考える。また、気持ちを表す語のリストを活用したことで、生徒はいろいろな気持ちを表す英単語をリストの中から選択することができ、英語で表現しやすくなったと考える。	

<b>学習環境Ⅳ</b> <b>〈話すこと〉</b>	生徒同士がペアでコミュニケーション活動を行う場面を設定する。
<b>取り入れた意図</b>	全体の前で発表することが苦手な生徒にとって、教師が、全体発表の前に、ペアでのコミュニケーション活動を行うことで、英語で話すことへの抵抗感を和らげることにつながる。
<p style="text-align: center;"><b>[ペアでのコミュニケーション活動]</b></p> 	<p><b>生徒の取組の様子</b></p> 4つの活動の中で、ペアによるコミュニケーション活動を行った。生徒が活動の始めに戸惑う場面が見られる活動もあったが、全体的に、多くの生徒が英語で自己表現をする姿が見られた。中でも、「暇なときによくやること」というテーマでのスモールトークや、「明日の英語の授業は自習です」という情報を見てどのように感じるかを話す活動では、自分から英語で話そうとする姿が多く見られた。
<p><b>[学習環境の考察]</b></p> 全体の前で発表することが苦手な生徒も、ペア活動を取り入れることにより、少人数であるという安心感をもつことができ、全体の前で発言することへの抵抗感を和らげることにつながったと思われる。また、活動の途中で、ペア活動のパートナーを代えたことにより、生徒は、英語で話すことができる相手が増え、更に話すことへの意欲につながったと考える。また、話しやすい話題においては、各生徒の発話量を増やすことにつながったと思われる。	

# 生徒の誰もが学びやすい学習環境づくりのすすめ

## 授業実践を終えて

～研究委員の先生方の感想より～

授業実践を通して、生徒の色々なつまづきに気付くことができました。

書く量を調整したワークシートを用意することで、生徒の書く負担が減り、その分、生徒が聞いたり読んだりする活動に集中して取り組めるようになって感じました。

「見通し」と「振り返り」の活動を位置付けて授業を組み立てると、生徒だけでなく、自分自身も見通しをもって準備と実施ができました。

ワークシートがあった方がいいと言う生徒が多かったので、授業に取り入れてみました。生徒はノートに書くよりもポイントを意識して言葉を書き入れていたように思います。ワークシートの活用もよいと思いました。

演習の時間に生徒同士の交流の場を設定したことで、生徒は自分の考えが話しやすくなり、授業の活性化にもつながりました。

生徒の苦手さを意識して学びやすい学習環境を取り入れたことで、分かりやすい授業となり、生徒の意欲が高まったように感じました。

授業実践では、生徒にとって分かりやすい授業となるように心掛けました。思ったよりも授業の準備に掛かる時間は少なく、これからも続けられそうです。

「特別支援教育」という言葉から、「特定の生徒」に「特別」なことをしなければいけないのだろうかと思われがちです。しかし、特別支援教育は「特別」なことではなく、全ての生徒に役立つことであり、教師の少しの工夫で実践できるものだと考えます。

高等学校の先生方が、まずは生徒の抱えている苦手さを理解して、学びやすい学習環境を授業の中にさりげなく取り入れていくことが生徒の学びやすさにつながっていくと思われれます。

研究についての詳細は、[佐賀県教育センターホームページ](#)を御覧ください

佐賀県教育センター

研究・調査

授業に役立つ実践研究

平成 25 年度研究成果

高等学校における  
特別支援教育の推進

13